

宝国寺ほうこくじ〔馬かけ場うまかけばにあり、浄土宗じゆつしゆにして知恩院ちおんゐんに属す。本尊阿弥陀あみだ仏は安阿弥あんあみの作、引接ひきつぎの相あひまなり。開基かいぎは円誉上えんよ

人〕

観音堂くわんおんだう〔門内の南みなみにあり、腹帯はらたひ観音くわんおんと称す。長一尺五寸七歩いちじやくごすんしちほ、蓮台れんたいに立せ給ひ、御足ごあしに沓くつを履給ふ像ざうなり。沙門延鎮さもんえんちん

の作さくにして、洛東清水寺らくとうせいすゐじと同時どうじなり。則ち田村將軍たむらしやうぐんの守本尊まもるとんとす。後世ごせいに至り江州観音寺くわんおんじの城主じやう佐々木家ささきけに安置あんじし、其後当寺ごとうじに寄附きよつせり。靈驗れいげんいちじるしくして、毎月毎月の法会ほふゑには諸人群集しよじんぐんじふして、門前かどまへに市店いちてんを飾かざる〕

念故寺ねんこじ〔聚楽町じゆらくにあり、浄土宗じゆつしゆにして智恩院ちおんゐんに属す。本尊阿弥陀あみだ仏は伝教大師でんけうだいしの作さくなり。開基かいぎは頓誉西堂とんよ、天正十

八年てんしやうじやくはちねんの草創くさそうなり〕

天満宮てんまんぐう〔鐘木町しゆもくにあり。本名ほんなは惠美酒町ゑびすといふ。此地遊女町あそびよめなり、今荒廢あらかたして纔さう残ざんる、当所あたところの楽戸らくとの天井板てんけいばんに大石おほいし

内蔵介くらのが筆跡ひつせきあり〕

白菊井しらぎくのゐ〔板橋七軒町いたばしななけんにあり、此所金札宮かねさつぐうの旧地ふるちなり〕

蛭子社ゑびすの〔上板橋中かみいたばしの町まちにあり、薬師院やくしと号す〕

有馬稻荷社ありま いなりの〔墨染にあり、山本氏守る〕やまもと太神宮たいしんぐう〔藤森玄蕃町にあり、祭神、神明〕ふじのもりげんば

正覚寺しやうかくじ〔墨染にあり、浄土宗にして智恩院に属す。本尊は三尊仏（弥陀、観音、勢至）共に恵心の作なり。腹帯地蔵、定朝の作なり。寺内に安置す〕ちやうてう

墨染桜すみぞめざくら〔今墨染寺庭前にあり。これは後世地名寺号等によりて準植る所なり。むかしの墨染桜は是より遙に良の方なり、今詳ならず〕いまぼくせんじ

世継物語云 今ゑんゆうあんはむかし円融院かくれおはしまして、墨染桜おもしろかりける、折て人のかりやるとて実方の中將

墨染の衣うき世の花盛折わすれてもをりてける哉
〔又墨染寺の什宝に、太閤秀吉公衣冠の画影あり、長谷川等伯の筆なり、影像の上に秀吉公自筆の和歌あり。〕ほくせんじ ひでよし はせ がどうはく ひでよし

あはれてふ色香をさとる桜木の花の面影墨染にして

此歌は細川玄旨の詠にして、自筆の短冊当寺にあり。太閤これを採て影讚に用ひ給へり。むかしは此所も深草の郷中なりしが、此墨染桜より地名となり、則ち京師より伏見街道にして、茶店建続て、常戯場ありて鶴見町となる、余は前編

に見へたり」

種蓮菴

〔藤の森南の鳥居前にあり、洛陽仏光寺懸所にして近年闢く所なり、未だ堂舎の建立あらず〕

了峯寺

〔同所筋違橋南爪にあり、禪宗曹洞派にして、洛陽宗仙寺に属す。本尊は釈迦仏、開基は月堂和尚〕

西岸寺

〔深艸中之村町にあり、真宗にして西本願寺に属す。開基は九条殿下兼実公の息女玉日君なり、則ち親鸞

聖人の御台所なり。聖人北国左遷の後、玉日君此地に止住し給ひ、家臣村田采女に譲り往生し給ふ旧跡なり。采女聖人の教法をうけ剃髪し、有阿弥と名乗、当寺を建立す〕

草鞋影 〔親鸞聖人北国経回の時、越前国有乳山を越給ふ影像なり。御形見としてみづから彫刻し給ひ、有阿弥にさづ

け給ふ、長一尺許、左に念珠右に杖を携、草鞋を履て歩行給ふ像なり。台坐は山巖の形を摸す〕玉日君墓〔堂の南にあり〕

西休寺さいきゅうじ

〔深艸極楽町ふかくさごくらくにあり、浄土宗じょうどしゅうにして智恩院ちおんゐんに属す。本尊阿弥陀あみだ仏は毘首羯磨天びしうかまてんの作なり、引接ひきぎの相すがたにして手引てびきの弥陀あみだと称す。開基かいきは林甫和尚りんぽわうにして慶長九年けichoの草創そうそうなり〕